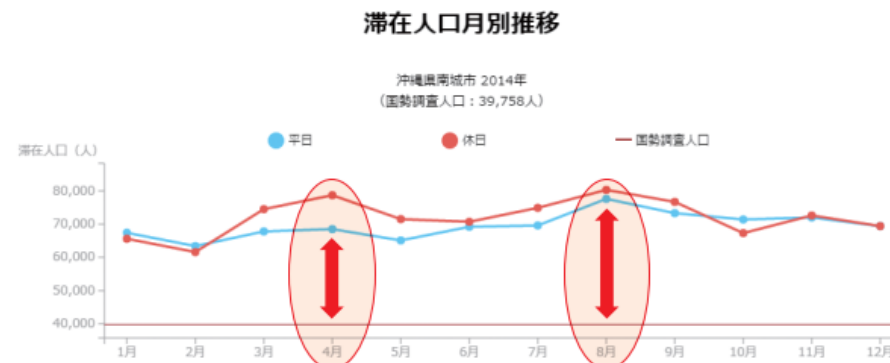


活用目的				地域課題キーワード	分析者			
現状の把握	課題の特定	戦略・施策の検討	効果の検証		教育機関	地方公共団体	研究機関	民間企業・団体
○	○	○		【農林水産業】高付加価値化、【製造業】域内取引の拡大		○		
データ活用の目的		沖縄県南城市における、農林水産業の域内取引拡大と高付加価値化のための戦略を検討する。						
分析内容		● 農林水産業、食料品、窯業・土石製品が移輸出超過となっており、南城市の「稼ぐ産業」となっている。 ● 南城市の農業の販売金額総額は減少している。 ● 食料品製造業は付加価値額、従業者数が高い一方、域外仕入が多い。 ● 年間を通じて月平均で3万人から4万人ほどの観光客が訪れている。 ● 農家レストランの実施状況が高いことが分かり、農業と飲食店の連携が既に進んでいる。						
地域の課題		● 食料品製造業との連携による農業の高付加価値化が必要である。 ● 食料品製造業の域内仕入の促進が必要である。						
戦略・施策		● 農産物のブランド化、6次産業化を推進する。						

農業部門別販売金額の分析



滞在人口の分析



地域経済分析システム（RESAS） 利活用事例集2016

沖縄県南城市

農業と食料品製造業の連携に関する分析/
農業と観光産業の連携に関する分析

活用目的				地域課題キーワード	分析者			
現状の把握	課題の特定	戦略・施策 の検討	効果の検証	【農林水産業】高付加価値化、 【製造業】域内取引の拡大	教育機関	地方 公共団体	研究機関	民間企業 ・団体
○	○	○				○		

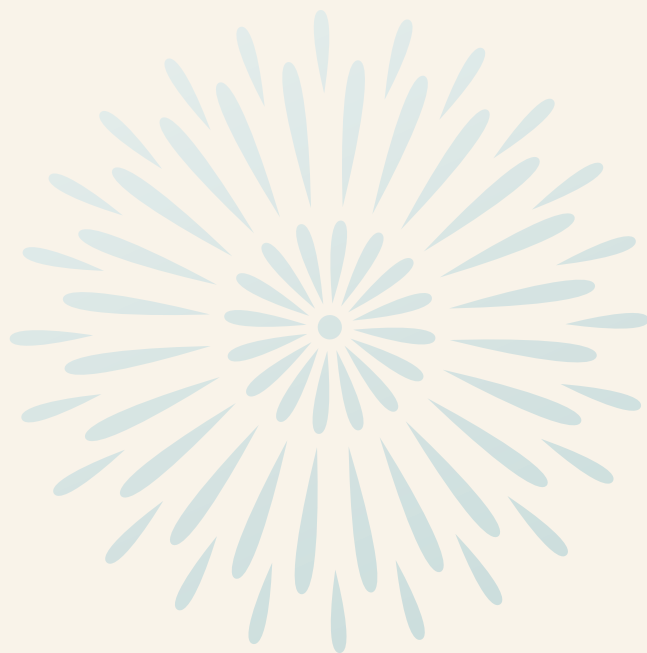


case.19

沖縄県南城市

RESASを使った分析例

- | | | |
|---|--------------------|------|
| 1 | 農業と食料品製造業の連携に関する分析 | P313 |
| 2 | 農業と観光産業の連携に関する分析 | P318 |



● 南 城 市 の 概 要

沖縄本島南部の東海岸、那覇市から約12kmに位置する人口42,914人の市。神の島と呼ばれている「久高島」、世界文化遺産である「せーふあうたき 斎場御嶽」、「おきなわワールド」などの観光資源に加え、近年では市内に多数のカフェが立地し観光地として人気を博している。農水産業が基幹産業となっており、クルマエビ、もずく、海ブドウなどの養殖や各種野菜・果物、ハーブなどの栽培が盛んである。

南城市は、2006年に佐敷町、知念村、玉城村、大里村が合併してできた沖縄本島南部の東海岸、那覇市から約12kmに位置する市であり、なかくすくわん 静穏な中城湾と太平洋に面している。大里地区など那覇市への利便性が高い住宅地、市街地としての都市機能を有するエリアと、知念地区など美しい海岸線と緑豊かな自然環境、数多くの歴史的資源を有し「沖縄らしさ」が残されたエリアが両立しているのが特徴である。神の島と呼ばれる「久高島」、世界文化遺産で年間約40万人の観光客を集める「せーふあうたき 斎場御嶽」をはじめとする貴重な歴史的・文化的資源のほか、国内有数の鍾乳洞や沖縄古来の町並みが楽しめる「おきなわワールド」が立地するなど、観光資源も多い。また、近年では、「高所から海を眺める」、「海岸沿いから海を眺める」、「広大な庭園を有する」、といった個性的な特徴を持つ、観光客にも人気を博しているカフェが多数、立地している。

農水産業が基幹産業となっており、クルマエビ、もずく、海ブドウなどの養殖、インゲン、ゴーヤ、オクラなどの野菜やパパイヤ、マンゴーなどの果物に加え、薬草・ハーブなどの栽培も盛んである。

■主要データ

面 積 ^{※1}	49.94km ²	世 帯 数 ^{※2}	16,434世帯
人 口 ^{※2}	42,914人	事業所数 ^{※4}	1,387
人口密度 ^{※3}	859.3人/km ²	従業者数 ^{※5}	10,476人

出典／※1 平成27年全国都道府県市区町村別面積調

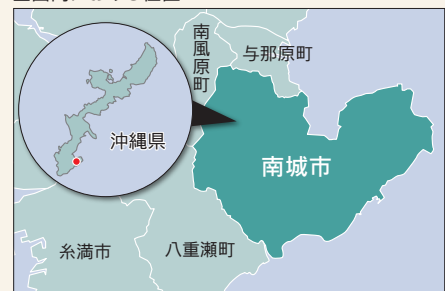
※2 南城市人口統計 行政区別住民登録人口(平成28年2月末時点)

※3 上記記載の「人口÷面積」にて算出

※4 平成26年経済センサス-基礎調査(事業内容等不詳を含まず)

※5 平成26年経済センサス-基礎調査(男女別の不詳を含む)

■国内における位置



■ニライ橋カナイ橋



■垣花樋川



● RESAS 活用の背景／活用状況

那覇市のベッドタウンとしての機能にとどまらず、地域で自立可能な就労の場を創り出し、地域産業を活性化する施策を検討するために、RESASを用い、地域で強みのある農水産業の分析を行っている。

南城市では、2010年までは人口増加率が徐々に低下する傾向をたどり、2005年～2010年には、ほぼ横ばいのレベルにまで落ち込んでいた¹が、2010年8月の都市計画の見直しを契機に状況は大きく変化し、見直しの2年後の2012年以降は、年を追うごとに人口増加率が上昇している。2015年の人口増加率である1.4%は、5年間の人口増加率に換算すると7%に相当し、過去と比べても極めて高い水準にあるといえる²。南城市への転入は沖縄県内からが74.7%、特に那覇都市圏³からの転入が60%を超える⁴。

南城市の自市町村内就業率は、那覇都市圏内では那覇市を除く10市町村中、糸満市、浦添市に次いで高く⁵、自立した経済の基盤を備えているといえるが、南城市への転入者の多くは那覇市等に通勤していることが分かっている。地区別に人口増加率を見ると、那覇市への利便性が高い大里地区などでは増加しているが、その他の地域、特に知念地区では人口が減少するなど、地区によって大きな差が生じている⁶。地域の活性化のためには、市内での雇用の受け皿を拡充することが必要と考えられる。

現在策定を進めている「南城ちゃーGANJU CITY創生戦略」では、就労機会の拡充をテーマに「地域資源を活用し、自立可能な就労の場を創り出す」ことを基本目標の1つとして掲げている。その中で「やりがいのある農水産業、もうかる農水産業の実現」として、農水産業の6次産業化や経営基盤の強化についての施策の検討を行っており、南城市における農業の現状分析及び今後の地域経済の活性化に資する他産業連携の可能性について、政策調整課でRESASを活用した分析を行っている。

また、観光商工課においては、近年の市内でのカフェの集積や、隣町の大型MICE⁷施設誘致等の影響を踏まえ、南城市の観光の魅力を再確認し、今後の施策の方向性について検討することを目的に、RESASを活用した分析を行っている。

1 資料：総務省「国勢調査」

2 資料：住民基本台帳

3 那覇市、周辺5市町（糸満市、豊見城市、与那原町、南風原町、八重瀬町）に、宜野湾市、浦添市、西原町、中城村を加えた11市町村（南城市を含む）を指す。

4 資料：住民基本台帳人口移動報告

5 資料：総務省「国勢調査」

6 資料：2011年～2015年の人口増加率。資料：住民基本台帳

7 MICEとは、企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(インセンティブ旅行)(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称である。MICEは、企業・産業活動や研究・学会活動等と関連している場合が多いため、一般的な観光とは性格を異にする部分が多い。人の集積や交流から、ビジネス・イノベーションの機会の創造、地域への経済効果、国・都市の競争力向上の主に3つの効果が生まれることが考えられる。

● RESASの分析によって得られた内容

南城市の強みである農水産業を活かした産業振興の方向性として、付加価値額の高い食料品製造業や魅力ある観光資源の1つとなっているカフェなどの飲食店との連携が有効であることが確認された。

RESASを活用したことで、「南城ちゃーGANJU CITY創生戦略」における「地域資源を活用し、自立可能な就労の場を創り出す」という基本目標を実現するための方向性を確認することができた。また、観光分野においては、隣の大型MICE 施設誘致に伴う環境の変化にも対応した、新たな観光の振興の方向性を確認することができた。

産業分析からは、農水産業が「稼ぐ産業」として強みがある一方で、生産性が低いことが課題であり、付加価値額の高い食料品製造業との連携によって、相乗的な付加価値額の向上が期待できることが分かった。今後は、南城市の多様な農産物を活用したブランド化や6次産業化を推進する施策を更に充実させ、稼ぐ農水産業の実現を図っていく予定である。

観光分野の分析では、南城市には、年間を通して一定数の観光客が訪れていることが確認され、その中でも、「おきなわワールド」、「斎場御嶽」、「カフェくるくま」への訪問客が多いことが分かった。また、カフェなどの飲食店では6次産業化など付加価値額向上の取組が既に進んでいることに加え、前述した食料品製造業と農水産業の連携を進めていくことから今後の付加価値の更なる伸びが期待される。

今後は、MICE関連のビジネス客や外国人観光客の増加が予想されており、地域の強みである「食」と、南城市ならではの歴史的・文化的資源や豊かな自然の魅力を組み合わせた周遊プランの開発等によって、観光産業、地域産業の更なる発展を図っていく方針である。

RESASの活用風景

■RESAS活用検討会の様子



■RESASを活用し、今後の施策を検討する様子



■活用のための資料



農業と食料品製造業の連携に関する分析

●活用の背景

南城市における第1次産業の構成比(就業者の割合)は全国、沖縄県全体、周辺5市町平均のいずれをも上回っており、南城市の基幹産業となっている⁸。漁業分野ではクルマエビ、もずく、海ブドウなどの養殖、農業分野ではインゲン、ゴーヤ、オクラなどの野菜やパパイア、マンゴーなどの果物に加え、薬草・ハーブなどの栽培も盛んである。また、養鶏・養豚などの畜産業も盛んで、多岐にわたる一次産品を生産している。

しかしながら、県内平均や周辺市町と比べて、農家一戸当たりの生産農業所得額が低い⁹という課題も存在しており、「やりがいのある農水産業、もうかる農水産業」の実現に向け、農水産業の6次産業化や経営基盤の強化についての施策の検討を行っており、その中で、南城市における農業の現状分析及び今後の地域経済の活性化に資する他産業連携の可能性について、RESASを活用した分析を行っている。

●分析内容

第19-1-1図は、南城市の生産額(総額)を移輸出入カラーで示したものである。これを見ると、農林水産業、食料品、窯業・土石製品が移輸出入カラーでプラスを示し、南城市の「稼ぐ産業」となっていることが分かる。

第19-1-2図は、沖縄県内市町村の農産物販売金額(総額)上位10位を示したものである。これを見ると、南城市の農産物販売金額は、県内では宮古島市、石垣市に次ぐ3位であり、沖縄本島では1位であることが分かる。

第19-1-3図は、南城市の農業部門別販売金額(総額)について、2005年から2010年の推移を示したものである。これを見ると、南城市の農業は酪農、養鶏、養豚などの畜産業及び施設野菜、露地野菜など多岐にわたるが、販売金額の総額は減少していることが分かる。

第19-1-4図は、南城市における農業の出荷先別販売金額(総額)について、2005年から2010年の推移を示したものである。これを見ると、販売先及び構成比にあまり変化がないことが分かり、今後、農業の付加価値額向上のために収益性の高い販売先の創出が必要であることが示唆される。

第19-1-5図は、南城市の製造業における付加価値額(企業単位)の内訳を示したものである。これを見ると、食料品製造業の占める割合が沖縄県、全国と比較しても高く、産業が集積していることが分かる。

第19-1-6図は、南城市の製造業における産業別の特化係数を示したものである。これを見ると、食料品製造業は付加価値額、従業者数が高いことが分かる。

第19-1-7図は、南城市の製造業における中核企業候補(コネクター度50%、ハブ度50%)のうち、食料品製造業の上位7社について取引状況を示したものである。これを見ると、域外仕入が多いことが分かり、域内取引の促進が必要であることが示唆された。

8 資料:総務省「国勢調査」(2010年)

9 資料:農林水産省「生産農業所得統計」(2006年)

農業と食料品製造業の連携に関する分析

●得られた結論・今後の展開

担当者からは、「農水産業は南城市の基幹産業であり、振興に力を入れている。RESASの分析によって、農水産業、特に農業と食料品製造業の2つを活かすことで、相乗効果として地域経済の活性化が見込めることが分かった。」との発言があった。南城市の農業は、沖縄県内でも上位の販売額があり、移輸入入収支もプラスの「稼ぐ産業」であるにもかかわらず、農家一戸当たりの所得は低いのが現状である。農業と付加価値額の高い食料品製造業との連携によって、相乗的な付加価値額向上が期待できることが確認された。また、食料品製造業では域外取引が多いことが確認され、今後は域内での仕入を促進していく施策が必要であることが示唆された。

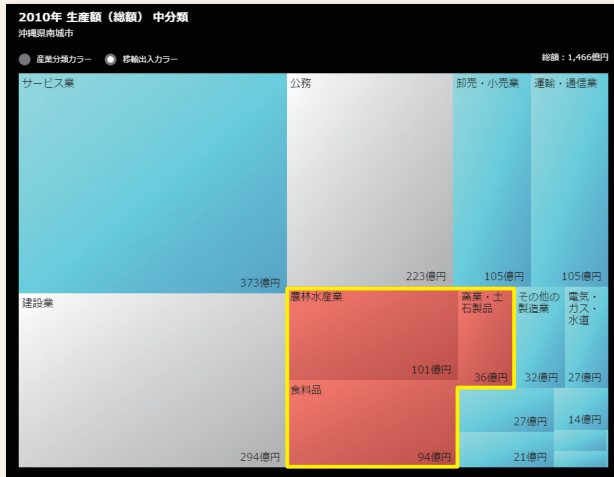
今後は、多岐にわたる農産物を活用し、ブランド化や6次産業化¹⁰を推進する施策を更に充実させることで、農水産業の収益性向上を目指していく。その他の産業振興施策としては、JICA草の根技術協力事業（地域活性化特別枠）¹¹を活用し、フィリピン共和国ビクトリアス市と農業と観光分野での技術支援を実施しており、農業分野では製糖業からの多角化を進めるなどを目指し、農家の研修などを充実させていく。観光分野では観光資源の発掘や観光客受入体制の整備などに資する技術協力を行っていく。

10 既に、東風マンゴー園の「沖縄南城市産純粋蜂蜜」やTV番組で紹介されて以来、人気を博して品切れ状態が続いている、みやぎ農園の「マヨネーズ」など、商品化されているものもあり、「地域循環創造交付金」を活用した取組が実施されている。

11 日本のNGO、大学、地方自治体及び公益法人の団体等がこれまでに培ってきた経験や技術を活かして企画した、途上国への協力活動をJICAが支援し、共同で実施する事業である。

1 RESASを使った分析例 | 農業と食料品製造業の連携に関する分析

■(第19-1-1図)地域経済循環マップ 生産分析 生産額(総額) 中分類 移輸出入カラー [沖縄県南城市 2010年]



Point!

農林水産業、食料品、窯業・土石製品が移輸出入カラーでプラスを示し、南城市の「稼ぐ産業」となっている。

■(第19-1-2図)農林水産業マップ 農産物販売金額(総額) [沖縄県上位10市町村 2010年] 再編加工

2010年 農産物販売金額(総額) 上位10				
	市町村名	金額(万円)	シェア	主要作物
1	宮古島市	883,750	17.6	工芸農作物
2	石垣市	367,675	7.3	肉用牛
3	南城市	325,025	6.5	養鶏
4	伊江村	283,350	5.6	花き・花木
5	八重瀬町	264,200	5.3	養豚
6	糸満市	253,250	5.0	花き・花木
7	今帰仁村	214,750	4.3	花き・花木
8	名護市	211,125	4.2	工芸農作物
9	うるま市	202,875	4.0	花き・花木
10	本部町	202,325	4.0	肉用牛
農産物販売金額(総額) (万円)				
沖縄県全体		5,031,675		工芸農作物

Point!

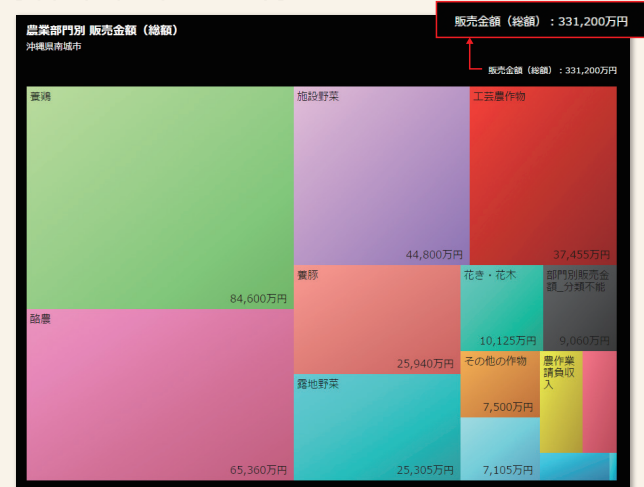
南城市の農産物販売金額(総額)は、県内では宮古島市、石垣市に次ぐ3位であり、本島においては1位であることが分かる。

■(第19-1-3図)農林水産業マップ 農業花火図 農業部門別販売金額(総額)

[沖縄県南城市 2005年]



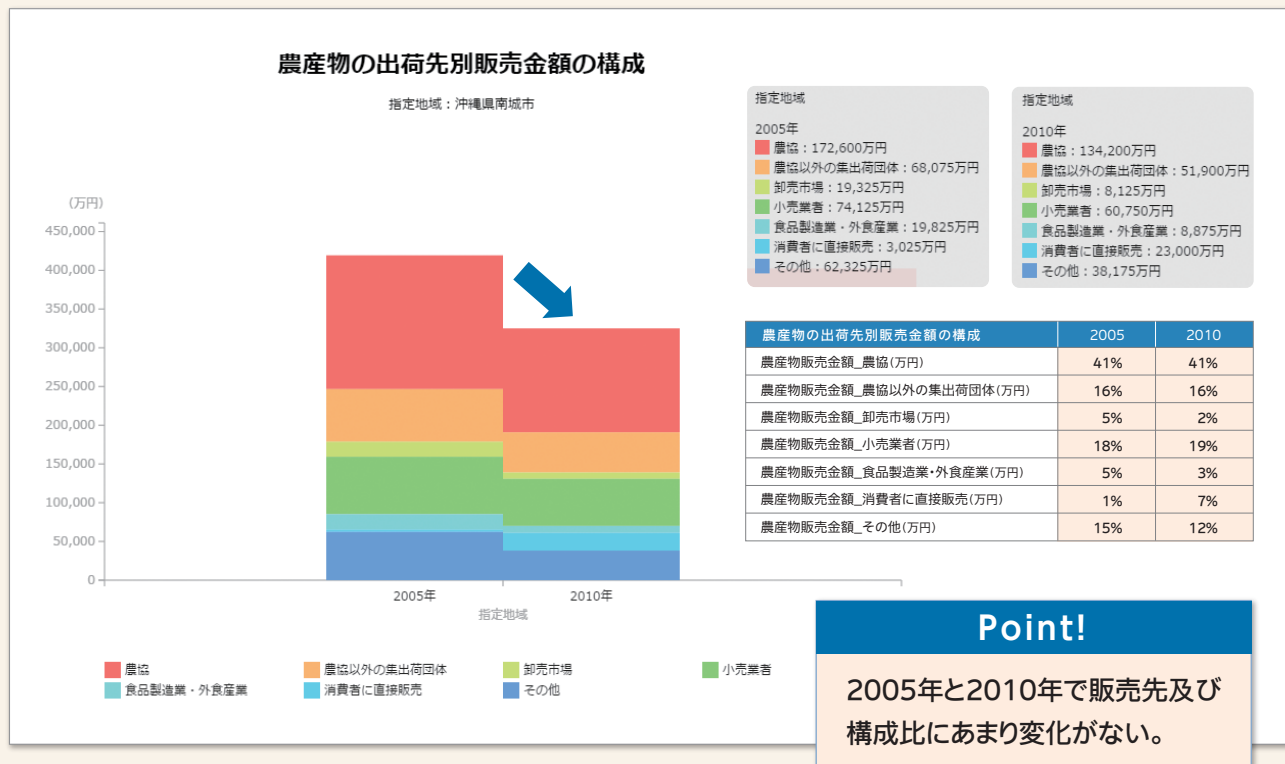
[沖縄県南城市 2010年]



Point!

南城市の農業は酪農、養鶏、養豚などの畜産業及び施設野菜、露地野菜など多岐にわたるが、販売金額の総額は減少している。

■(第19-1-4図)農林水産業マップ 農産物販売金額 農産物の出荷先別販売金額の構成
[沖縄県南城市]



📷 南城市の風景

■玉泉洞



(おきなわワールド)

■新原ビーチ

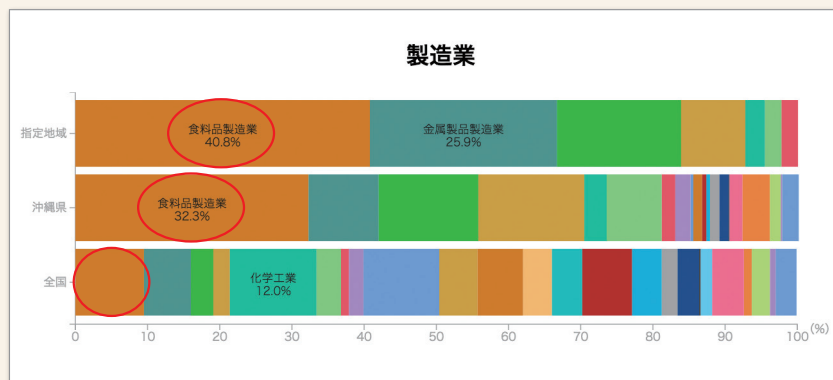


■知念城跡



1 RESASを使った分析例 | 農業と食料品製造業の連携に関する分析

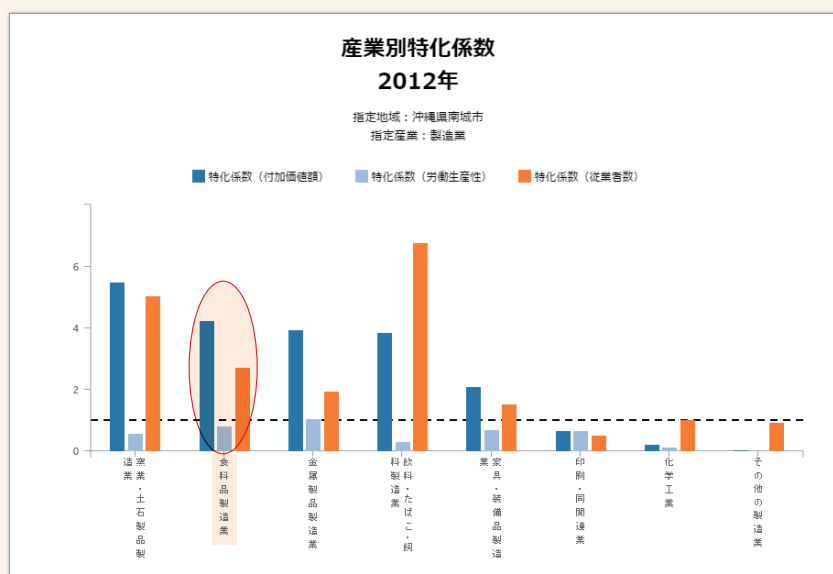
■(第19-1-5図)産業マップ 全産業花火図 付加価値額(企業単位) 中分類 割合順 [沖縄県南城市 製造業 2012年]



Point!

製造業の付加価値額は、食料品製造業の占める割合が沖縄県、全国と比較しても高く、産業が集積していることが分かる。

■(第19-1-6図)産業マップ 稼ぐ力分析 [産業別特化係数 2012年 製造業 沖縄県南城市]



Point!

食料品製造業の特化係数は付加価値額、従業者数が高い。

■(第19-1-7図)産業マップ 企業別花火図 [食料品製造業] 再編加工

	企業名と製造分野	域外販売 () は県外	域内販売	域外仕入	域内仕入	
1	A社 水産食品製造	6(1)	0	6	2	※原料仕入は域内の漁協
2	B社 健康食品製造	7(2)	0	9	1	※原料仕入は域内・域外
3	E社 畜産食品(酪農)製造	10(0)	0	5	0	
4	F社 健康食品製造	6(1)	0	3	0	
5	G社 菓子類製造	5(1)	0	4	0	
6	J社 畜産食品製造	0(0)	1	0	0	販売先は食肉センター
7	K社 畜産食品製造	0(0)	1	0	0	販売先は食肉センター

Point!

中核企業候補(コネクター度50%、ハブ度50%)では、域外仕入、販売が多いことが分かり、域内取引の促進が必要である。

農業と観光産業の連携に関する分析

●活用の背景

南城市では、世界文化遺産である「^{せーふあ うたき}斎場御嶽」、鍾乳洞や沖縄古来の町並みが楽しめるテーマパーク「おきなわワールド」などの歴史的・文化的資源を有している。また、豊かな自然も魅力的な観光資源となっており、近年では、「高所から海を眺める」、「海岸沿いから海を眺める」、「広大な庭園を有する」、といった個性的な特徴を持つ、観光客にも人気を博しているカフェが多数、立地している。

今後の観光振興を検討するに当たっては、隣接する与那原町に2020年の運用開始を目指して大型MICE施設の誘致が決定していることから、外国人観光客やビジネス客など、既存の観光客とは異なるニーズを持つ来訪者に対して、南城市の観光資源の魅力を発信していく施策が必要である。これを踏まえて、重点的に振興していくべき観光資源や観光メニューの開発を検討するために、RESASを活用して南城市の流動人口の動向分析を行った。

●分析内容

第19-2-1図は、南城市の平日、休日における滞在人口の月別推移を示したものである。これを見ると、年間を通じて月平均で3万人から4万人ほどの観光客が訪れていることが分かる。

第19-2-2図は、南城市の平日、休日における流動人口の推移を示したものである。これを見ると、「おきなわワールド」、「斎場御嶽」の流動人口は、時期は異なるが、ピーク期の流動人口がほぼ同等であることが分かる。更に、「カフェくるくま」には、この2箇所に迫る人口の流入があることが分かる。

第19-2-3図は、南城市の産業中分類別事業所数(事業所単位)、従業者数(事業所単位)を示したものである。これを見ると、飲食店、飲食料品小売業の事業所数、従業者数が多いことが分かり、カフェなどの飲食店が充実していることが示唆される。

第19-2-4図は、南城市における宿泊業、飲食サービス業の付加価値額構成比(企業単位)を示したものである。これを見ると、飲食店の占める割合が突出して高いことが分かる。

第19-2-5図は、南城市における農業生産関連事業の実施状況を示したものである。これを見ると、農家レストランの実施状況が高いことが分かり、農業と飲食店の連携が既に進んでいることが分かる。

農業と観光産業の連携に関する分析

●得られた結論・今後の展開

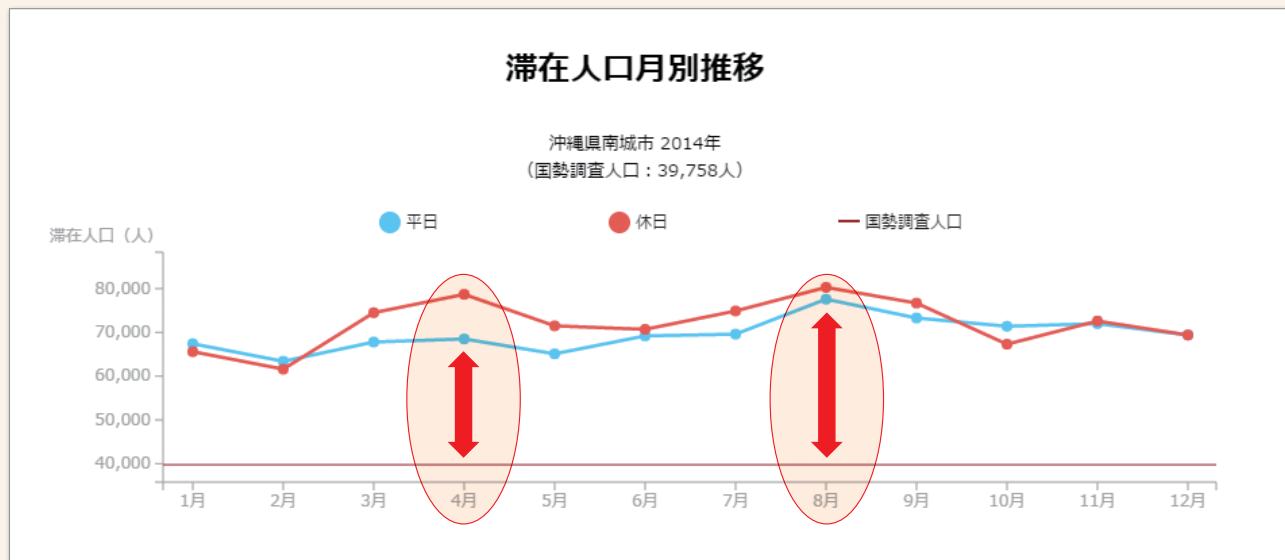
担当者からは、「RESASの分析により、沖縄南部の中では比較的多くの観光客が訪れていることが確認された。次のステップとしては、南城市を訪れる観光客がどこに魅力を感じているのかを把握し、沖縄県内の他の観光地との差別化を図ることが重要である。」との発言があった。また、「カフェくるくま」の7月の流動人口が、南城市の二大観光地である「おきなわワールド」及び「斎場御嶽」に迫っているという結果を受けて、「カフェが南城市の魅力の1つにまで、成長していることが分かった。」と述べている。

事業所数や従業者数、付加価値額構成比などを見ても、市内にカフェなどの飲食店が充実していることが推察され、更に農業関連事業の実施状況として農家レストランが高い数値を示していることから、南城市の強みである農業と連携した6次産業化が進んでいると考えられる。

今後、大型MICE施設の運用開始により、これまでの観光客とは異なる視点を持ったビジネス客や外国人観光客の来訪が予想される中、地元の食材にこだわるカフェは、付加価値を生み出す観光資源となることが期待され、そのポテンシャルを活かすための取組の重要性が確認された。

今後は、飲食店と連携した6次産業化の取組を更に支援するとともに、「斎場御嶽」等の観光資源とカフェの周遊プランの開発等を検討する予定である。また、観光ポータルサイト「らしいね南城」運営事業を更に進め、観光情報発信や観光交流、観光客の利便性向上を図っていく方針である。

■(第19-2-1図)観光マップ 滞在人口率 滞在人口月別推移
[2014年 沖縄県南城市]

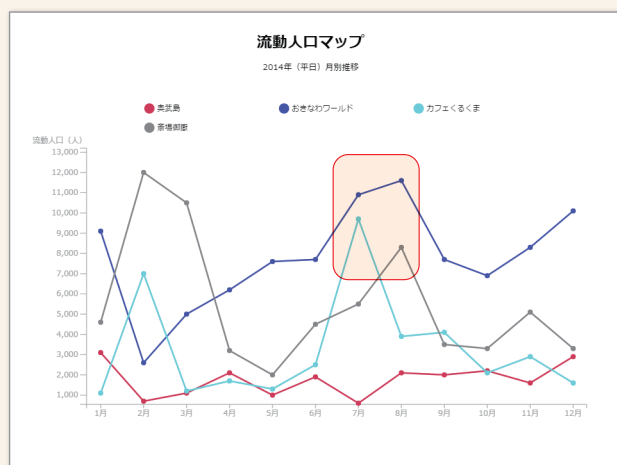


Point!

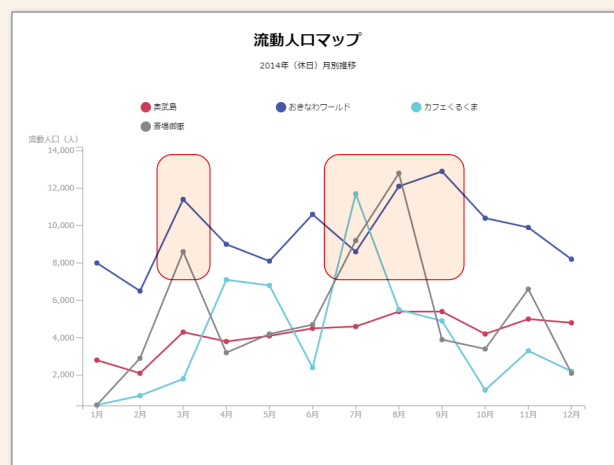
年間を通じて月平均で3万人から4万人ほどの観光客が南城市を訪れている。

■(第19-2-2図)観光マップ メッシュ分析(流動人口) 流動人口マップ
[月別推移 斎場御嶽、奥武島、カフェくるくま、おきなわワールド]

[2014年(平日)]



[2014年(休日)]



Point!

「おきなわワールド」、「斎場御嶽」の流動人口のピークが近い。更に、「カフェくるくま」には、この2箇所に迫る人口の流入がある。

南城市の観光資源



① 久高島

琉球開びゃくの祖アマミキヨが最初につくったとされる島で、五穀発祥の地、神の島と呼ばれている。



② 東風マンゴー園の「沖縄南城市産純粋蜂蜜」

マンゴーの授粉をしている蜜蜂から採蜜した天然100%蜂蜜。主に近年薬草として注目されているシロノセンダングサ(サシグサ)から集めた蜜である。沖縄県南城市産の蜂蜜は沖縄産でも特に採蜜量の少ない蜂蜜である。

③ みやぎ農園のマヨネーズ

卵は2週間、マヨネーズであれば1年間日持ちすることに着目し、保存できる商品として開発。マヨネーズに最低限必要な材料だけでできた、卵の味を感じられる、素朴なマヨネーズ。

④ おきなわワールド

美しい鍾乳洞や赤瓦の町並み、そしてハブ植物公園など見どころ満載。スーパーエイサーの演舞も毎日開催している。



(おきなわワールド)

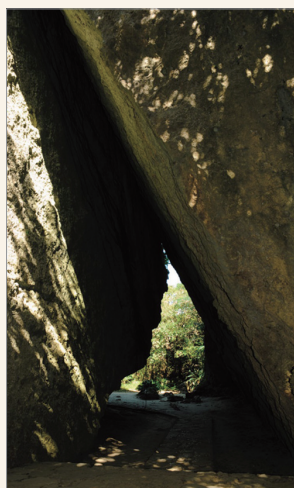
⑤ アジアンハーブレストラン カフェくるくま

テレビCMなどの撮影にも使われ、有名人も多く訪れる南部の元祖ロケーションカフェ。本場タイ人のシェフが作るエスニック料理をはじめ、ファミリー向けのメニューもそろそろ。ハーブなど健康食品を扱う会社が運営しているので食材も安心・安全にこだわった良質なものが味わえる。



⑥ 齋場御嶽

創世神アマミキヨがつくった琉球開びゃく七御嶽中の最高の聖地。2000年12月に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として世界遺産に登録された。

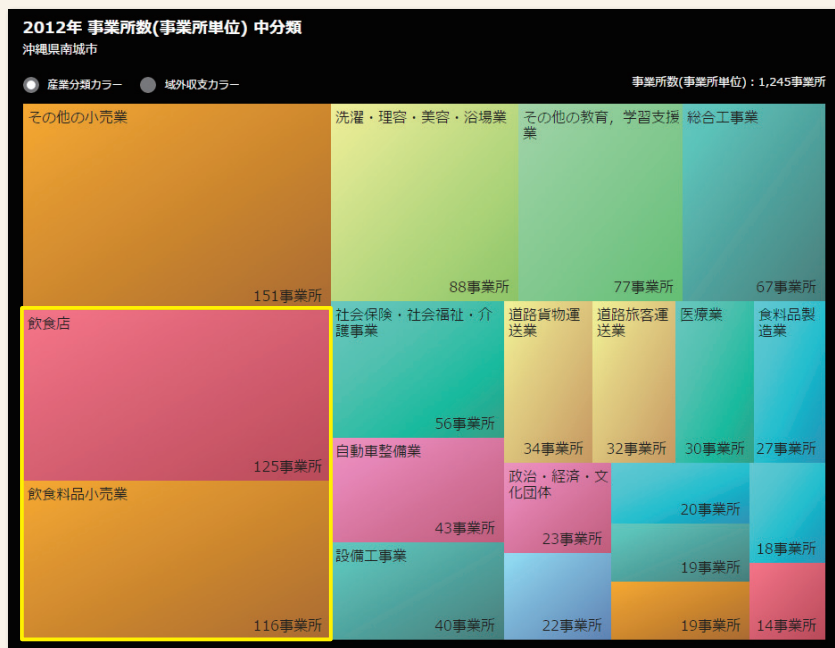


■(第19-2-3図)産業マップ 全産業花火図 中分類 産業分類カラー

[従業者数(事業所単位) 沖縄県南城市 2012年]



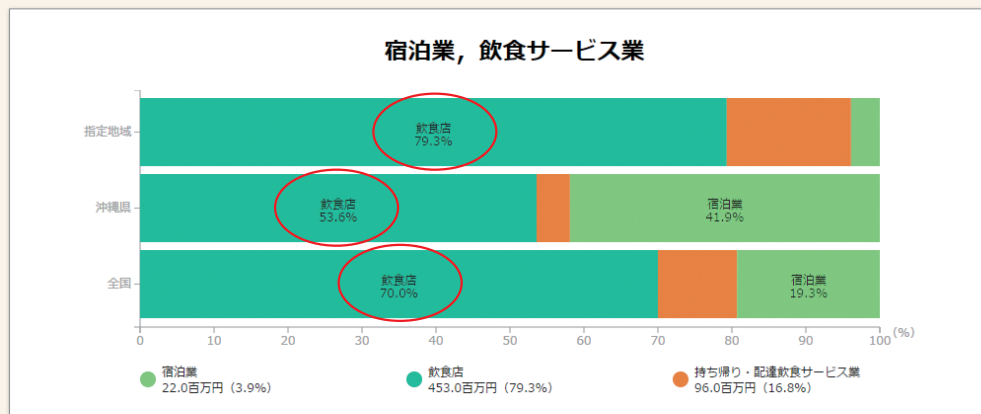
[事業所数(事業所単位) 沖縄県南城市 2012年]



Point!

飲食店、飲食料品小売業の事業所数、従業者数が多く、カフェなどの飲食店が充実していることが示唆される。

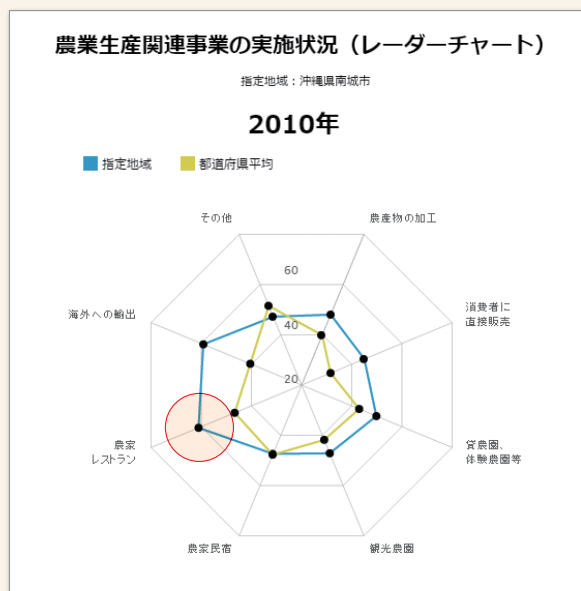
■(第19-2-4図)産業マップ 全産業花火図 付加価値額(企業単位) 中分類 割合順
[沖縄県南城市 宿泊業,飲食サービス業 2012年]



Point!

宿泊業, 飲食サービス業の付加価値額構成比(企業単位)を見ると、飲食店の占める割合が突出して高い。

■(第19-2-5図)農林水産業マップ 農業者分析 農業生産関連事業の実施状況(レーダーチャート)
[沖縄県南城市]



Point!

農業生産関連事業の実施状況は農家レストランが高く、農業と飲食店の連携が既に進んでいることが示唆される。